香川県情報誌
かがやくけん、かがわけん。
香川県
2012 No.39
冬

新・さぬき野

特集

丹下健三の創造美

瀬戸内国際芸術祭2013
開催地を訪ねて

作品づくりに市民も協力 沙弥島（しゃみじま）

万葉集で柿本人麻呂が歌に詠んだ沙弥島。東西160m、南北930mの小さな島であったが、昭和42年に番の州が埋め立てられ陸続きとなった。北端にあるナカンダ浜は、瀬戸大橋が美しく見える場所として有名である。

この沙弥島を舞台に、「瀬戸内国際芸術祭2013」の作品を制作しているのが、神戸芸術工科大学の大畑幸恵さんら。ナカンダ浜で集めた白い貝殻から絵の具を作り、その「沙弥島の白」を使って作品を完成させる予定だ。貝殻集めには、「坂出親子おてつ隊」のメンバーも協力している。作品制作を、地元の子どもたちが手伝うプロジェクトが立ち上がった。大畑さんは、「沙弥島の環境や生活と、美術との関係性が想像力を刺激する」と、作品のイメージを膨らませている。作家と地元市民の触れ合いの中から生まれる作品に期待したい。

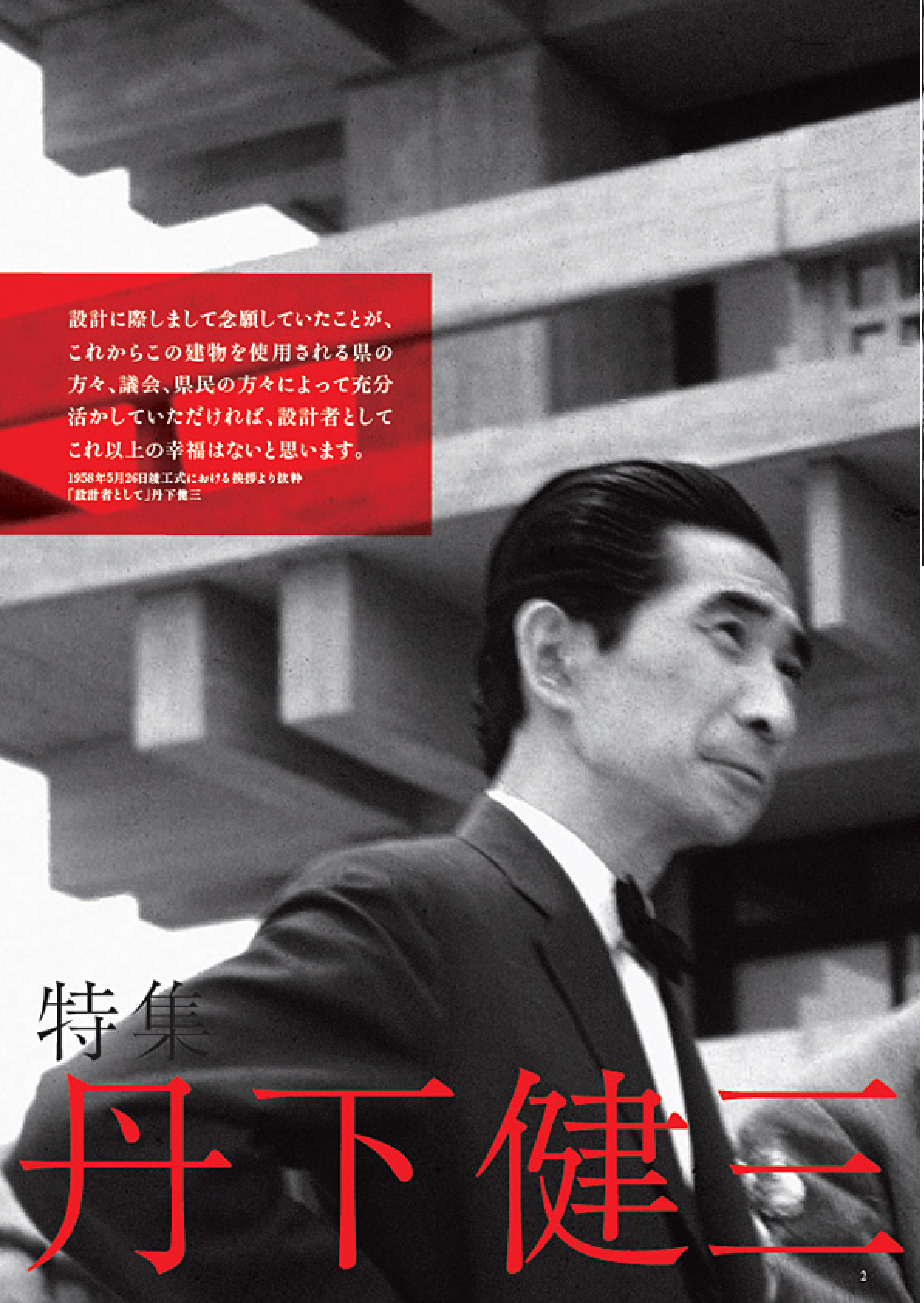
坂出市産業課にぎわい室
TEL0877-44-5015

香川県情報誌
新・さぬき野 2012 No.39 冬

香川県に関する問い合わせ

香川県広聴広報課　〒760-8570　香川県高松市番町4-1-10 TEL087-832-3019
香川県のホームページ　http://www.pref.kagawa.lg.jp/
新・さぬき野のページ　http://www.pref.kagawa.lg.jp/kocho/sanukino/（スマートフォン版有り）
香川県東京事務所　〒102-0093　東京都千代田区平河町2-6-3都道府県会館9階 TEL03-5212-9100
香川県大阪事務所　〒542-0083　大阪市中央区東心斎橋1-18-24クロスシティ心斎橋4階 TEL06-6281-1661

かがやくけん、かがわけん。
香川県



特集
丹下健三の創造美

**日本の伝統美を時代の先端技術で表現した「香川県庁舎旧本館」。
丹下健三の初期代表作といわれるこの建物をはじめ名建築に恵まれた香川県。
建築王国とも称される香川県に世界的建築家・丹下健三の足跡を訪ねる。**

丹下健三と香川県の接点は、香川県庁舎東館一階の壁画がその秘密を握っている。「和敬清寂」と題されたこの斬新な作品は、香川県出身の洋画家・猪熊弦一郎の手による。猪熊画伯は、当時の金子正則知事から県庁舎新築の相談を受け、丹下健三の名前を挙げたという。それをきっかけに丹下健三の作品が香川県に誕生することとなる。1950年代の代表建築として、新時代の到来を宣言した名建築。2000年には新館が完成する。香川県行政の拠点として多くの県民に慕われている香川県庁舎旧本館、現在の東館である。

設計に際しまして念願していたことが、これからこの建物を使用される県の方々、議会、県民の方々によって充分活かしていただければ、設計者としてこれ以上の幸福はないと思います。

1958年5月26日竣工式における挨拶より抜粋
「設計者として」丹下健三

壁画「和敬清寂」
猪熊画伯は日本のあるべき民主主義は、
茶の精神であり茶の精神は和敬清寂にありとして、
この和敬清寂の趣旨を抽象的な画で表した。

壁画の制作時、猪熊画伯はニューヨークにいたが、
現場を一度も見ないまま送られてきた作品は、
寸分たがわず設置場所に収まった。
実は精密な模型を作り、作品を作り上げていた。

お話を伺ったのは、日本大学名誉教授・日本建築家協会名誉会員の神谷宏治氏。神谷氏は当時、丹下健三研究室に所属し、県庁舎の現場管理を担い、庭の設計や家具のデザインを手掛けた。2013年夏に開催する「丹下健三生誕100周年プロジェクト」では総括委員を務める。

意志の固い人種が生んだデモクラシーの公共建築

神谷氏の思い出に残る丹下氏は、「建築家は意志の固い人種でなければならない」と語ったことだという。時代をけん引する建築が生まれるとき、その設計の核となる譲れないものがある。それは、ある意味施主の意志の固さであり、設計者のこだわりでもある。香川県庁舎の新築で、金子知事から示された譲れないテーマは、「民主主義時代にふさわしい庁舎を設計してほしい」ということであった。

その要望に応えて丹下氏は、尊敬する近代建築の巨匠ル・コルビュジエの「近代建築の5原則」に基づく設計案を作成する。その原則とは、①ピロティ、②屋上庭園、③自由な平面、④水平連続窓、⑤自由なファサード（立面）。それら全てを盛り込んで、香川県庁舎は誕生した。

この特集にあたって
香川県庁東館ロビーで語る
神谷宏治氏

KENZO
TANGE

自由に行き交うパブリックスペース

その設計ポイントは、まず1階部分の「ピロティ」にある。柱だけで構成され、吹き抜けの空間が広がる。ここは、道行く人々が自由に立ち入りくつろぐことができる場所で、その奥の庁舎や南庭へと人々を誘うような、「広場」としての役割をもっている。「開かれた行政」という願いを建物が表現したのだ。それまでの庁舎といえば権威主義的なものと思われていたが、このデザインはその後の庁舎建築の手本になった。

次に当時は先進的な試みであった「屋上庭園」。1956年（昭和31年）に第1期工事の起工式が行われたが、完成間際の時点で、金子知事の提案により突如屋上を開放することになった。県庁舎を人々の心のオアシスにしたいという願いが込められたのだ。設計変更と施工には大変な労苦があったがこの試みは功を奏し、東京タワーが完成した同じ年の1958年5月26日に落成した庁舎屋上には、半年で十数万人が訪れた。まさに広く県民に開かれた庁舎として歩み始めることとなる。

庁舎内部には「自由な平面」が展開する。基本となる最小単位を30㎝と定め、移動可能な仕切りのパネルなどを設計した。これにより事務所内の空間を自由に間仕切りできる。さらに「水平連続窓」により、明るい空間が広がる。

そして、「自由なファサード（立面）」。ファサードとは、建物の正面をなす外観。人でいえば顔である。ピロティにより開かれた空間となった正面玄関、続く1階ホールはピロティと天井面の高さをそろえ、そのまま自然に内部空間にいざなう。県民室とも呼べるホールは、庭を望み明るい光にあふれている。そこはまるで県民のリビングルーム。自由に本を開き、談話し、日なたぼっこをしながらくつろぐ。今では、県外の方々も「和敬清寂」の壁画を眺めながら香川観光のひとときを楽しんでいる。

かけがえのない建築美

香川県庁舎旧本館は、ほかにも近代建築の斬新な試みがなされている。構造的には鉄骨を一切使わず、鉄筋コンクリートのみで8階建てを構築したこともわが国では初の試みであった。これは、戦後の構造力学と建築資材の進歩の成果であった。

コア・システムを採用し、建物の中心部にエレベーターや階段、トイレなどを集中させ、分厚い耐震壁が建物を支えている。これが、「自由な平面」の実現を可能にした。さらに、コンクリートの打ち放しの美しさが人々を驚かせた。そこには厳しく管理されたコンクリートの品質と型枠大工の見事な腕前、現場に携わる人々の丁寧な仕事ぶりがあった。神谷氏がいう「プロシューマー（プロデューサー＋コンシューマーの合成語）」システムの効果。つまり、施設の使い手である県職員などが主になって現場で活躍した。作る側と使う側の一体化である。また現場では、失業者対策として男女を問わず多くの県民が懸命に働いたという。さらに、その後の清掃活動も行き届いていたため、常に訪れる人々に好印象を与え続けた。

香川県庁舎は、世界でも高く評価され、日本文化の国際的評価を高める一役を買っている。香川県庁舎は間違いなく丹下健三が世界的建築家になるための重要な作品であった。そして、日本における近代建築史のかけがえのない作品である。

２０００年には再び丹下健三・都市・建築設計研究所により新庁舎が誕生した。地下2階、地上21階の高層ビルは、東館となった旧本館につながり見事に調和している。

香川県庁本館

KENZO TANGE

丹下健三（1913年-2005年）

東京帝国大学建築学科を卒業後、前川國男建築事務所に入所。その後、東京帝国大学大学院に進み、卒業後は東大の教壇に立つ。丹下健三・都市建築設計研究所を設立。国立代々木競技場などの傑作で「世界のタンゲ」と呼ばれる。意欲的に建築設計や都市計画に取り組み、国内では香川県庁舎をはじめ地方自治体の公共建築を多く手掛けた。また国内外の都市計画に広く関わり、日本のみならず世界の建築界に与えた影響は大きい。受賞歴としては、イギリス王立建築家協会ロイヤル・ゴールドメダル、アメリカ建築家協会ゴールドメダル、フランス建築アカデミーゴールドメダル、ドイツ政府プール・ル・メリット勲章、イタリア国家有功勲章コメンダトーレ章、文化勲章、日本建築学界大賞、プリツカー建築賞、高松宮殿下記念世界文化賞建築部門賞、勲一等瑞宝章、フランス・レジョン・ドヌール勲章、その他多数。

【瀬戸内国際芸術祭2013】

丹下健三生誕100周年プロジェクト

香川県庁舎を設計した丹下健三の生誕100周年を記念し、企画展のほか、シンポジウム、瀬戸内の丹下建築作品を巡るツアーなどのイベントを行う。

丹下健三と瀬戸内の現代建築展（仮）
会期：平成25年7月20日（土）～9月23日（月・祝）〔予定〕
会場：香川県立ミュージアム

丹下健三生誕100周年記念シンポジウム（仮）
会期：平成25年8月24日（土）・25日（日）〔予定〕
会場：香川県民ホールほか

香川県庁
香川県高松市番町4.1.10 TEL087.831.1111
開庁時間:8時30分～17時 閉庁日:土日祝日、年末年始

琴勇輝関

琴勇輝一樹　ことゆうき かずよし　東十両3枚目
本名：榎本勇起　えのもと ゆうき
出身地：香川県小豆郡小豆島町
誕生日：1991年(平成3年)4月2日生
身長：177㎝／体重：157㎏
初土俵：2008年(平成20年)3月場所
四股名：琴榎本→琴勇輝
最高位：十両1枚目
新十両：2011年(平成23年)9月場所

香川県知事
浜田恵造

佐渡ヶ嶽親方

佐渡ヶ嶽満宗　さどがたけ みつむね
本名：鎌谷満也　かまたに みつや
四股名：琴ノ若晴將(本名)
出身地：山形県尾花沢市
誕生日：1968年(昭和43年)5月15日生
受賞歴：殊勲賞2回 敢闘賞5回
生涯戦歴：785勝764敗100休

浜田知事×佐渡ヶ嶽親方×琴勇輝関

小豆島で培った技、角界で花開け

知事　27年ぶりの「大相撲小豆島オリーブ場所」、やはりその迫力に感激いたしました。この小豆島場所の実現には、小豆島出身の琴勇輝関のご活躍もありますし、何より佐渡ヶ嶽親方には大変ご尽力いただいたと伺いました。

親方　ちょうどこの巡業の話が出ましたのが、琴勇輝が新十両を決めたときでした。そこで小豆島町の塩田町長に掛け合ったところ、「やりましょう！」という快諾をいただき、27年ぶりの巡業が実現しました。

知事　琴勇輝関は中学高校時代を小豆島で過ごし、内海中学校、小豆島高校と相撲部で稽古に励んでこられたのですね。

琴勇輝関　当時、香川県の中学校には相撲部がなかったので、県外に出るかどうか悩んでいました。すると、小豆島で土俵を作って稽古ができるというお話をいただき、喜んでまいりました。

知事　小豆島には、良い指導者の方がおられたようですが、当時の練習はどのようなものだったのですか。

琴勇輝関　監督に手取り足取り指導していただき、中学の時から高校の先輩方と一緒に稽古をつけてもらいましたので、小豆島に来て本当に良かったと思っています。

高校1年の終わりに四国四県の対抗戦で個人優勝も果たせました。前年にキャプテンが決勝戦で敗れていましたので、その借りを返せたという思いでした。中学からご指導くださった監督は、高校の相撲部の監督でしたので、この勝利で一つ恩返しができうれしかったですね。

知事　小豆島で心も体も健やかに育った琴勇輝関ですが、その陰には香川のおいしい食べ物があったのではないかと思います。香川の食の思い出といえば、どんなものがありますか。

琴勇輝関　やはり小豆島のオリーブでしょうか。給食にオリーブの塩漬けが出るんですよ。子どもでも、これはおいしいと思いました。

知事　今日はオリーブ牛300人前、オリーブハマチ20匹が力士の皆さんに贈られましたが、どちらもオリーブをエサに加えて育てていますので、健康に良い効果があるといわれています。ぜひ味わってください。

親方　実は準備で10日前から小豆島に居ますが、オリーブハマチとオリーブオイルを毎日いただいております。これは最高ですね。

知事　おいしい香川の食材をもっと召し上がっていただき、琴勇輝関にもますます活躍していただきたいと願っています。

私は観音寺市の出身ですが、佐渡ヶ嶽部屋におられた琴ヶ濱関や何より年寄佐渡ヶ嶽を襲名して佐渡ヶ嶽部屋を興した初代琴錦関も観音寺市のご出身ですね。

琴勇輝関の四股名の中にある「琴」は、琴錦関の地元、観音寺市の琴弾八幡宮に由来すると伺っております。

親方　先代の師匠から、この「琴」という字は「とても縁起がいいんだぞ」と聞かされました。「琴というのは今に王になる」、だからこの「琴」をずっと使うんだとおっしゃっていました。ですから、佐渡ヶ嶽部屋は新弟子の名前にもすべて「琴」を付けます。

知事　なるほど、王の字の下に今で、今に王になっていくということですね。琴欧洲関も「琴」がついていますね。この名前が受け継がれていくのは、香川県の人間としてはありがたいことです。

実は山形県に住んでいたこともあるので、山形出身の佐渡ヶ嶽親方は、現役の琴ノ若時代から存じ上げております。現役時代、思い出の一番と言いますとどの取組でしょうか。

親方　そうですね、一つ挙げるとしたら平成16年7月場所の横綱朝青龍戦でしょうか。朝青龍の体をかばおうと手をついたのが、「かばい手」ではなく「つき手」ではないかと物言いがついて取り直しになってしまったのが、いまだに印象に残っていますね。

翌年には、「手をつくな、投げの打ち合いは顔から落ちろ」という先代の教えを守った一番もありました。安美錦と投げの打ち合いになり、顔から落ちて右半分がすりむけた痛い相撲でしたが、勝ちとなりうれしい一番になりました。

知事　琴勇輝関には、佐渡ヶ嶽親方に負けない立派な関取になっていただきたいですね。

琴勇輝関　こんな立派な巡業を開いていただき、多くの皆さんの応援や思いに、ぐっとくるものがありました。ふるさとの期待に応えられるように、一日も早く入幕できるよう稽古に励みたいと思います。部屋には大関を筆頭に、強い兄弟子の皆さんがそろっておられるので、しっかりと胸をお借りして、早く追いつけるよう頑張ってまいります。一日も早く、目標は横綱と胸を張って言えるようになりたいと思います。

知事　ぜひ、期待しております。佐渡ヶ嶽親方、琴勇輝関、お忙しい中をありがとうございました。

10月23日に開催された
「大相撲小豆島オリーブ場所」

新しい風【オリーブオイル】

香川県産

世界で評価される オリーブオイル

うどんに続く県産品として、オリーブのブランド化を進める香川県。

香川県産オリーブオイルの人気が、ますます高まっている。

「2012ロサンゼルス国際エキストラバージンオリーブオイル品評会（北半球の部）」で、香川県から出品した8社のオイルが入賞を果たし、1社が国内オイルでは初の金賞を受賞した。イタリアで出版されているオリーブオイルのガイドブックの2012年版「フロスオレイ世界オリーブオイルガイドブック」に、香川県の7社のオイルが日本企業として初めて掲載され、2013年版には県内の9社のオイルが掲載された。

国内だけでなく、海外でも香川県産オリーブオイルの品質の良さが評価されている。本場イタリアをはじめ、世界各国の高級オイルと肩を並べつつある。

オリーブの主要産地である小豆島は、日本の「オリーブ栽培発祥の地」で、その歴史は100余年という長い歳月を数える。明治時代に栽培が始まって以来、国内では数少ないオリーブの産地として歩んできた。

小豆島は平均気温15度、年間降水量1200㎜程度の温暖寡雨で、瀬戸内式気候である。この風土が、オリーブ栽培の成功した理由の一つである。

それに加えて、生産農家の努力がある。9月下旬になるとオリーブの新漬け用の果実の収穫が始まり、10月下旬ごろからはオイル用の果実の収穫が始まる。オリーブの実の収穫は手作業で行うことが多い。さらに、品質の悪い実は手で選別してから搾油している。「オリーブ一粒一粒を大切に育て上げ、人の手で収穫、選果し、すぐさまオイルへと加工している。収穫後、手早く搾油することが上質のオリーブオイルづくりにつながる」と小豆島オリーブマイスターの佐伯真香さんは胸を張る。

さらに、極上のオリーブオイルには、企業努力による搾油技術の向上によるところも大きい。香川県には日本で唯一のオリーブ研究所があり、長年オリーブの試験・研究に取り組み、加工業者などをサポートしてきた。

量ではなかなか海外に太刀打ちできないが、品質の高さで勝負していきたい。一昨年から、小豆島では小豆島町と土庄町が連携して「トップワンプロジェクト」を立ち上げた。他県でのオリーブ栽培が増えている中、オンリーワン産地からトップワン産地を目指し島内一丸となってさまざまな取り組みが行われている。

オリーブ収穫の最盛期は晩秋。新しいオリーブオイルは、年末から年明けにかけて登場する。その鮮やかな緑色と爽やかな香りが、一足早い春を感じさせる。

小豆島では、オリーブの収穫や選果は手作業が多く、傷が付いた実などを一つ一つ取り除いている。

香川県県産品振興課 TEL087-832-3375
香川県農業生産流通課 TEL087-832-3422
オリーブプロジェクト
http://www.kensanpin.org/olive_project/olive/

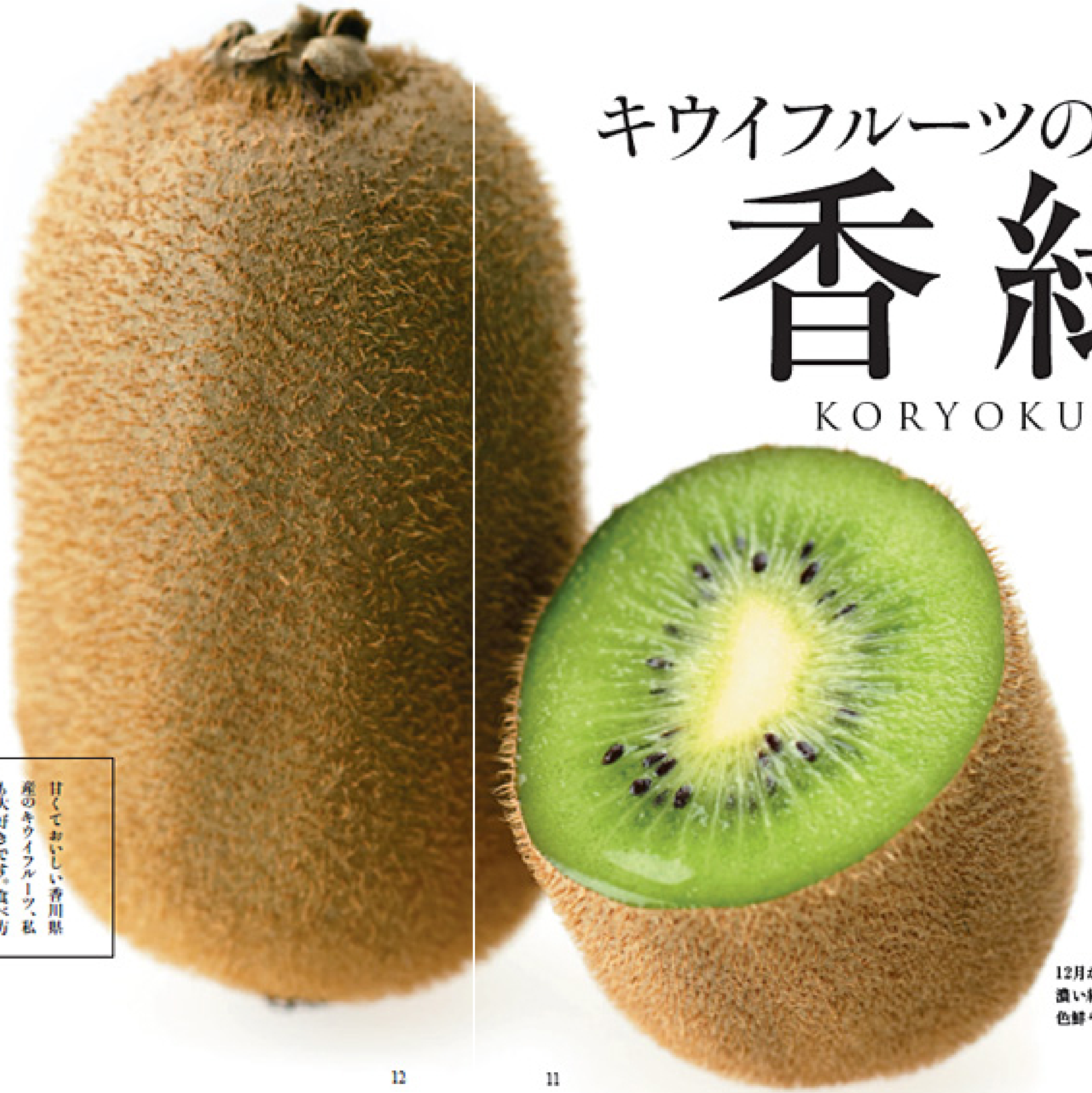
キウイフルーツの最高峰
香緑
KORYOKU

香川県内には、県のオリジナル品種を中心に、上質なフルーツがいくつもある。香川県は、全国で評価される自慢のフルーツをもっと広く知ってもらうため、これまでのKブランドに代わる新ブランド「さぬき讃フルーツ」を立ち上げ、新たにPR活動を始めている。現在、「さぬき讃フルーツ」として認定されているのは、温州ミカンの小原紅早生、イチゴのさぬきひめなど10品目。そのうちの4品目を県内で開発されたキウイフルーツが占める。香川県は、キウイフルーツ研究におけるトップランナーである。

認定を受けたキウイフルーツの品種は、香緑（こうりょく）、さぬきゴールド、香粋（こうすい）、さぬきエンジェルスイート。そのうち、最初に開発された品種が香緑である。冬に旬を迎える香緑は、果肉の緑色が濃く、高糖度で酸味の少ないのが特徴。濃厚な甘みの中にある爽やかな風味とジューシーな味わいを存分に楽しめるキウイフルーツ。果実は俵形で、品質の高さが評価され、今では「香川県産の香緑」といえば最高級品として知られており、出来の良い物は、進物用として1個1000円以上の値段が付くことも珍しくない。JA香川県では、平均糖度が最上級のものを「スイート16」としてブランド化を進めている。

香緑のおいしさを支えているのは、生産農家のたゆみない努力である。農薬の量を減らすため、ある程度の大きさになった実に手作業で袋をかけ、病気の誘因となる雨と虫から守っている。その袋をよく見ると、下部はぽっかり穴が空いている。ここから湿度を逃がしているのだ。長年の経験から導かれた栽培の工夫が、最高級の実を生む。

この技術を学ぼうと、県外から生産農家に働きに来る若者が増えている。若者を引き付ける理由は「世界で勝負できる果物だから」という。最近では、そのまま香川県で独立する人もでてきた。次世代が作る新しい香緑にも期待したい。



12月から1月にかけて旬を迎える香緑。
濃い緑色の果肉には、とろけるような甘みがある。
色鮮やかな冬の進物として喜ばれている。

さぬき讃フルーツ
Sanuki San Fruit

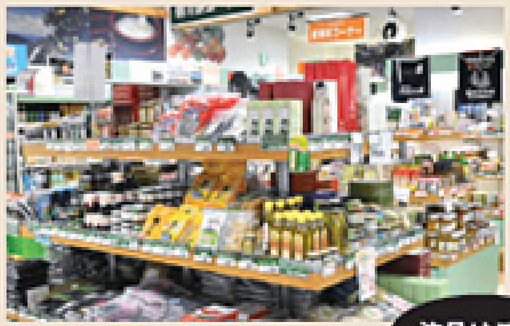
糖度など一定の品質基準を満たし、
県が認定した生産者により育てられ
た香川県産フルーツの新ブランド。

うどん県副知事
木内晶子

甘くておいしい香川県産のキウイフルーツ、私も大好きです。食べ方は、半分に切ってスプーンですくうのが一番。美容と健康のために、毎朝食べるようにしています。皆さんもぜひ、朝の食卓に並べてみませんか。

香川県農業生産流通課 TEL087-832-3417
香川県県産品振興課 TEL087-832-3375
さぬき讃フルーツ http://www.pref.kagawa.lg.jp/seiryu/sanukisanfruit/

香川・愛媛
せとうち旬彩館
KAGAWA EHIME
SETOUCHI SHUN SAI KAN



注目はこれ!

「瀬戸内国際芸術祭2013」開催を前に舞台となる島々をクローズアップ
（期間：12月1日～2月28日）

1階の「特産品ショップ」には、小豆島のオリーブオイルやしょうゆ、伊吹いりこ、直島の天日塩など、島々の商品をそろえたコーナーが登場。

併せて、2階の郷土料理が味わえる「かおりひめ（香媛）」でも、島々の食材を使った期間限定メニューを提供します。

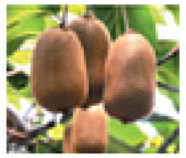
きらきら輝く瀬戸内海の島々に思いをはせながら、ぜひ一度ご賞味ください。

【交通のご案内】
◎JR「新橋駅」銀座口から徒歩1分
◎東京メトロ銀座線「新橋駅」2番出口すぐ
◎ゆりかもめ／都営浅草線「新橋駅」から徒歩3分
◎都営大江戸線「汐留駅」から徒歩5分

〒105-0004 東京都港区新橋2-19-10新橋マリンビル1,2階
http://www.setouchi-shunsaikan.com
観光交流コーナー　TEL03-3574-2028

ご意見・ご感想をお寄せください。

抽選で10人に11ページに掲載のさぬき讃フルーツ「香緑」（3千円相当）をプレゼント。



本誌についてのご意見・ご感想とともに住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、メールまたははがきで、下記までお送りください。
メール：sanukino39@pref.kagawa.lg.jp
はがき：〒760-8570（住所不要）
香川県広聴広報課「新・さぬき野」読者プレゼント係
応募締切：平成25年1月11日（金）必着
※当選者の発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます。
※個人情報は、賞品の発送以外の目的に使用することはありません。

香川県庁舎東館の偉大さをあらためて感じました。これからも大切に使い、未来につなげていきたいと思います。　編集長

新・さぬき野 冬 No.39 平成24年12月1日発行
企画・発行：香川県広聴広報課
編集制作：(株)[illegible]

〔東京で味わえる香川の恵み〕

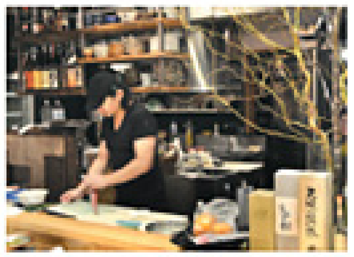
香川の食材に東京で出合った。
まずは東京で。次はぜひ本場香川へ

今が旬の「オリーブハマチ」

香川県への食材ツアーに参加し、実際に見て地元の食材の良さを実感したことがきっかけで、今では定期的に季節の野菜などを香川県から仕入れているという日笠料理長。

冬の時期にお薦めしたいのは「オリーブハマチ」。脂を軽く浮かして食べるのがコツだと教えてくれました。しゃぶしゃぶにしたり、炙りにしたり、刺し身はもちろん、半生のハマチにオリーブなどを添えて小鍋仕立て風にもアレンジできます。どれも、オリーブハマチのとろけるようなおいしさをうまく引き出しています。ハマチなのに色持ちが良いのも魅力。お客様にも好評です。

ほかにも、甘みのあるオリーブ牛やこだわり野菜なども味わえます。香川の旬の恵みを、ぜひご堪能ください。



店内は季節ごとに桜や紅葉、白樺の木などの演出で、趣のある雰囲気に

12月は「香川県フェア」を開催。「オリーブハマチ」をお好みの方法で調理してもらえるメニューが登場。

【ひか紗】
東京都港区六本木7-12-29-102
TEL03-3403-0700
http://hikassa.blog79.fc2.com/

「うどん県。それだけじゃない香川県」新作ポスターと映像発表

うどん県副知事の要潤さんが、「香川県」改め「うどん県」を宣言してから1年余り。2012年も要の台所にアートコンペティションとさまざまな「うどん県。それだけじゃない香川県」プロジェクトを展開してきました。

そしてこの秋、新作ポスターと続編となる映像を発表。3種類のポスターには、3人の副知事、要潤さん、木内晶子さん、川井郁子さんがお薦めする「オリーブ」「栗林公園」「直島のアート」が描かれています。映像は加藤茶さんを迎え、約400人の県民のエキストラも協力して制作。ぜひホームページをご覧ください。

うどん県副知事の木内晶子さんらが新作ポスターを発表

【お問い合わせ】
香川県観光振興課　TEL087-832-3379
http://www.my-kagawa.jp/udon-ken/

「瀬戸内国際芸術祭2013」作品鑑賞パスポート発売中

来年3月20日に開幕する「瀬戸内国際芸術祭2013」。

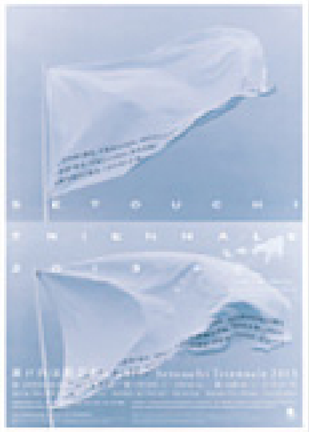
今回は、12の島々（直島、豊島、女木島、男木島、小豆島、大島、犬島、沙弥島、本島、高見島、粟島、伊吹島）と高松港・宇野港周辺を舞台に、春（3月20日～4月21日）、夏（7月20日～9月1日）、秋（10月5日～11月4日）の3シーズンに分けて開催します。

「アートと島を巡る瀬戸内海の四季」をテーマに、16の国と地域から128の作家・プロジェクトが新たに参加する予定です。

現在、作品鑑賞パスポート（引換券）を発売中です。（3シーズン券：一般5,000円、高校生3,500円など）

島と海の四季の魅力を生かした現代アートの展開を、どうぞお楽しみに。

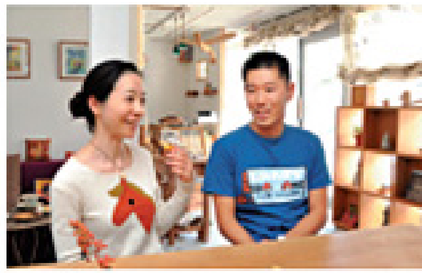
渋谷ヒカリエで告知キャンペーン開催予定（2/20～3/4）



「瀬戸内国際芸術祭2013」春ポスター

【お問い合わせ】
瀬戸内国際芸術祭実行委員会事務局
（香川県瀬戸内国際芸術祭推進室内）
<平日>TEL087-832-3123
<土日祝：総合インフォメーション>TEL087-813-2244
http://setouchi-artfest.jp/

小豆島で暮らすぜいたくな時間



今年の春、千葉県から小豆島に移住してきた瀬尾さんご夫婦は、7月、苗羽（のうま）に焼き菓子店「うみねこかしや」をオープンしました。瀬戸内国際芸術祭に訪れた時、きらきら輝く瀬戸内海に一目ぼれし、島への移住を考えたそうです。

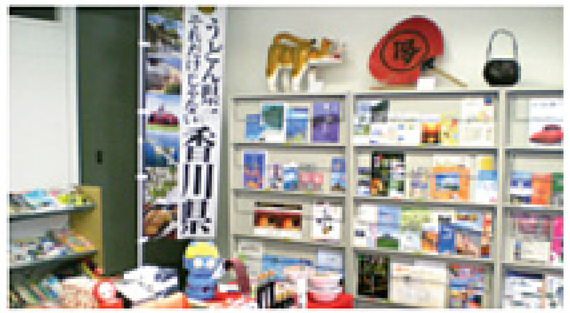
暮らしてみて、山と海の両方がとても近く、夕焼けや星もきれいで、想像以上にぜいたくな、すてきな時間を過ごしているそうです。お菓子を買ってくださったお客さまから、「ありがとう」と優しく讃岐弁で話し掛けてくれたことに感激したり、島内で季節ごとの食材が揃えたりするのが小豆島のいいところと教えてくれたお二人の優しい笑顔が印象的でした。

行政をはじめ島で暮らす人も、島全体で移住者を温かく受け入れてくれる、そんな小豆島がとても気に入っているようでした。

香川で暮らすはじめの一歩
空き家の情報がすぐにわかる、便利な住まい探し専用サイト「香川が新しいふる里　かがわ住まいネット」がオープンしました。香川県への移住を考えるとき、まず気になる住まいのこと。「海の見えるところに住みたい」「家庭菜園がしたい」などの希望を満たす物件が見つかるかも。ぜひご覧ください。

【お問い合わせ】
県地域づくり推進室 TEL087-832-3125
http://www.pref.kagawa.lg.jp/seisaku/eekagawa/house/

贈り物に香川県産品を



香川県大阪事務所が新しく心斎橋にオープンして、4年目を迎えようとしています。所内には、県物産協会大阪支部が、県産品の販売コーナーを設け、「半生うどん」をはじめ、「しょうゆ豆」「和三盆」「オリーブ製品」「うどんネクタイ」「うどんバッチ」など、33品目の販売・PRを行っています。ご注文いただければ、香川県からのお取り寄せなどのサービスも行います。

お歳暮や年末、年始のごあいさつなどに、香川県産品を、ぜひご活用ください。

事務所では、このほか、「瀬戸内国際芸術祭2013」をはじめとする観光PR、関西圏の香川県出身のUターン就職や、香川への移住の相談、企業誘致の推進、大阪香川県人会の入会申込み、市場調査など、幅広い業務を行っています。ぜひ一度お立ち寄りください。

【お問い合わせ】
香川県大阪事務所 TEL06-6281-1661
大阪市中央区東心斎橋1-18-24 クロスシティ心斎橋

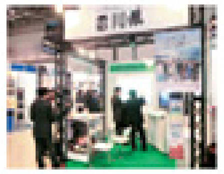
企業の拠点づくりをサポート

香川県内に企業を誘致し、県経済の活性化を図ろうと、香川での拠点づくりをサポートしています。

企業が短期間でスムーズに立地できるよう対応窓口を企業立地推進課に一本化したワンストップサービス、自然災害の少なさなど優れた立地環境、来年3月には台湾便が開設され空路でもますます便利になるアクセスの良さ、充実した優遇制度など、香川県のセールスポイントを前面に打ち出しPRしています。

今後も、企業に積極的に丁寧に誘致を働き掛け、足腰の強い県経済の実現を目指します。

「FCEXPO2013」
（2/27～3/1東京ビッグサイト）に出展予定。



【お問い合わせ】
香川県企業立地推進課 TEL087-832-3355
かがわ企業立地ガイド
http://www.pref.kagawa.lg.jp/kigyoritti/